

ごあいさつ

被差別・社会的マイノリティに対する忌避意識や偏見の克服、差別の解消は大きな課題となっています。この解決のためには、被差別・社会的マイノリティ当事者や関係者と地域住民とが、地域における共通の課題を解決するために、ともに考え、ともに取り組むことによって、地域住民の間での関係づくりをすすめる、排除や孤立のない人権尊重のコミュニティづくりをめざすことが大切です。

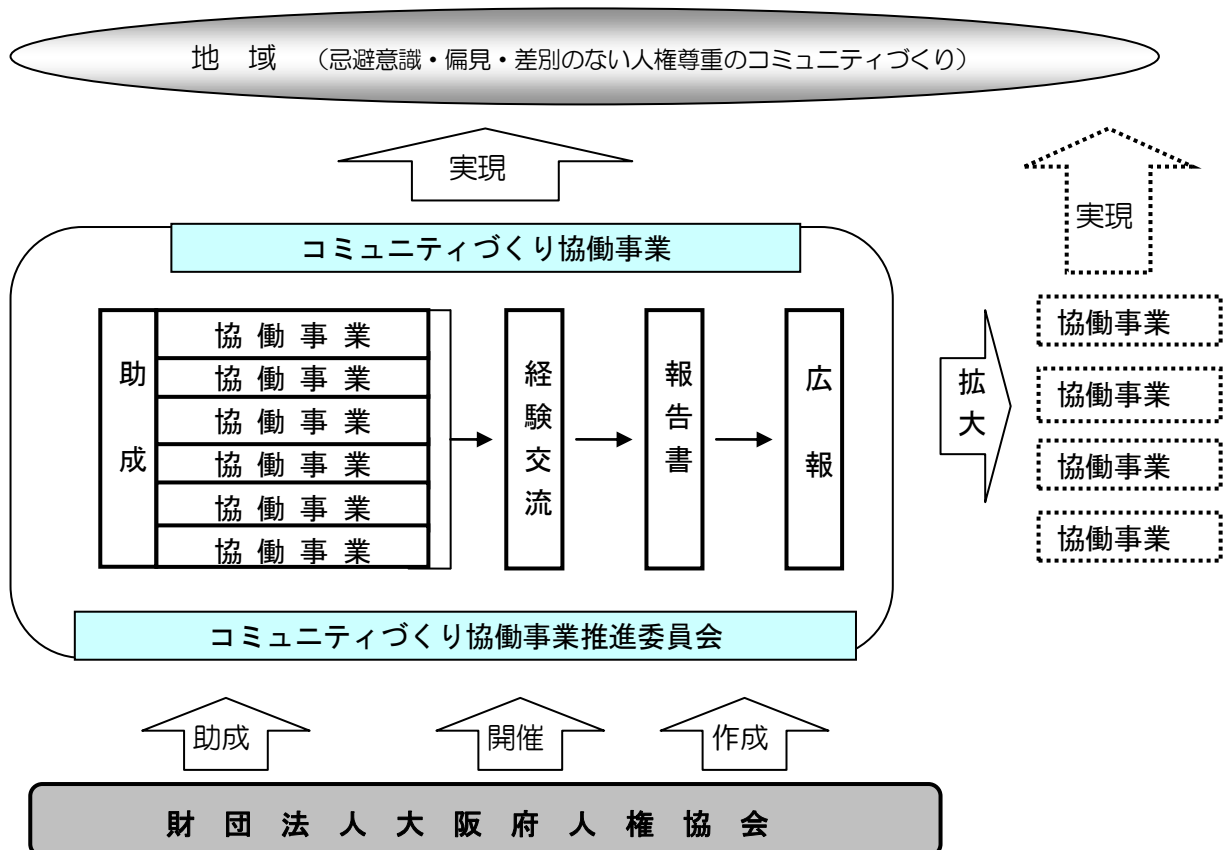
このような取り組みを進めるために、「コミュニティづくり協働事業助成金」を実施し、モデルとなる取り組みへの支援を行いました。13事業の申し込みのうち、6事業を選考して助成を行いました。そして、このモデルとなる取り組みを『人権のコミュニティづくり—2010年度コミュニティづくり協働事業報告書—』として取りまとめました。

このモデルとなる協働の取り組みを参考に、人権のコミュニティづくりをめざした協働の取り組みが、様々な地域や団体で行われ、さらに広がることで、豊かな人権尊重のコミュニティが作られることを願っております。

2011年5月

財団法人大阪府人権協会
理事長 神尾 雅也

事業の概要



もくじ

- ①第14回「平和と人権」畜魂祭・とうろうまつり
「平和と人権」畜魂祭・とうろうまつり実行委員会 3
- ②知的障がいをもつ女性の自立支援～はじめの一步プロジェクト～
財団法人大阪YWCA 4
- ③セクシャル・マイノリティの労働環境を考えるコミュニティ事業
QWRC 5
- ④新しく開設された市民交流センターで多世代間の交流を
西成子ども応援サークル・スプッチ 6
- ⑤鳴滝地域から発信するまちづくり
NPO法人ワンピース 7
- ⑥地域多文化交流事業
部落解放同盟大阪府連合会道祖本支部 9

財団法人大阪府人権協会

〒552-0001

大阪市港区波除4-1-37 HRCビル (AIAI^{あいあい}おおさか) 8階

TEL. 06-6581-8613 FAX. 06-6581-8614

<http://www.jinken-osaka.jp/> info@jinken-osaka.jp

報告書に掲載している事業についてのお問い合わせは、上記までお願いします。

2010年度コミュニティづくり協働事業 活動報告書

事業名	第14回「平和と人権」 畜魂祭・とうろうまつり
団体名	「平和と人権」 畜魂祭・とうろうまつり実行委員会



日時・期間	2010年 9月21日 (火)
場 所	羽曳野市立青少年児童センター
規模・人数	約700名

事業の目的 と 協働の形態	<p>食肉業や地域に対する偏見の払拭と、崩壊しつつある地域コミュニティの再生、そして、牛をはじめとしたあらゆる命によって生きていることへの感謝・喜びをともにわかちあい、平和を実感することを目的とする。</p> <p>地元小・中学校、地域内公共施設、老人会、消防団、食肉産業後継者の会といった、各組織・団体、NPO法人などにより実行委員会を形成。イベントの運営・進行での協力を得ている。</p>
---------------------	--

実施内容	<p>羽曳野市西部に位置する向野地域は、百数十年の歴史がある「食肉のまち」であるが、と畜業に対する偏見や差別は依然として根強いものがあり、また地域に対する偏見も存在している。</p> <p>そういった偏見の払拭と崩壊しつつある地域コミュニティの再生、そして何よりも牛をはじめとした「あらゆる命」によって、人間が生きながらえていることへの感謝・喜びをともにわかちあい、平和を実感することを目的として、1997年よりイベントを開催。</p> <p>「安心で安全な食肉」のPRと合わせて、今年度は宮崎県で発生した口蹄疫に対する正しい知識の普及も目的に追加した。</p> <p>第1部は子どもから高齢者まで、それぞれが「命への感謝」を込めたメッセージを和紙に託し、手作りのとうろうを作成。それを「畜魂碑」のまわりに配置し、秋の彼岸にあわせておこなわれる法要（畜魂祭）に参加。</p> <p>第2部はとうろうまつりとして、手作りのとうろうに点火しイベントが開始される。各組織が遊びコーナーや食べ物コーナーを運営し、ステージ上ではチャリティーカラオケや河内音頭を実施。チャリティーや模擬店の売上げの一部を毎年、「羽曳野市教育振興基金」に寄付している。</p>
------	---

成果と課題	<p>周辺の方々がミートセンターに足を運ぶことにより、食肉業や地域に対しての啓発活動をおこなうことができる。また、様々な組織・団体との協働によって、地域間だけでなく、人と人との交流がはかれる。そういったことにより、地域コミュニティの再建に寄与でき、人権が尊重されるぬくもりもある、まちづくりに結びつけることができる。</p>
-------	--

お問い合わせ先： 「平和と人権」 畜魂祭・とうろうまつり実行委員会 電話：072-954-8201

2010年度コミュニティづくり協働事業 活動報告書

事業名	知的障がいを持つ女性の自立支援 ～はじめの一步プロジェクト～
団体名	財団法人 大阪YWCA

(取り組みがわかる写真を添付してください)



日時・期間	2010年4月～2011年3月
場 所	大阪YWCA
規模・人数	約30人

事業の目的 と 協働の形態	大阪YWCAでは、知的障がいを持つ女性を対象に余暇活動や仲間作りを目的とした活動（グループパレット）を長年続けてきた。今回は、自分たちの手作りSHOPを準備、実施することで自立支援の一助としたい。また、協働の形態としては、知的障がいを持つ当事者と大阪の市民のボランティアが協働して事業を実施した。
実施内容	<p>大阪YWCAでは、知的障がいを持つ女性を対象に「グループパレット」という、ハンディキャップの有無にかかわらず共に活動するグループを約30年間運営してきた。初期から関わるハンディキャップを持つメンバーの中には中高年にさしかかり、親亡き後の心配も現実味を帯びている。今回は自立の第一歩として、得意な手仕事を活かして、クッキーや手芸品などを販売し、お金を生み出すSHOPの運営を企画した。</p> <p>まずは、12/4に大阪YWCAで行われるクリスマスバザーに出店し、手作り品などを販売した。収益はまずまずであったが、積極的に販売し達成感を味わうことができた。そして、収益の一部を、メンバーの交通費として還元した。</p> <p>また、2/5、6のワンワールドフェスティバルにおいても、大阪YWCAのブースで手作り品を出品し、ボランティアとして販売に関わった。製作から販売まで直接関わることができたのは大変達成感があり、ささやかではあるが社会参加への第一歩につながったと思われる。そして、今回のバザー出店をきっかけに、製作や販売をすることに関心を持ち積極的に取り組むメンバーも多かった。また、一緒に取り組んだボランティアとの仲間意識も以前より高められたように思われる。</p> <p>その他には、この活動を紹介するためのリーフレットを作成した。より多くの人に活動を知ってもらい新たなメンバーやボランティアを募集するために、今後も引き続き配布をしていく予定である。</p>
成果と課題	当事者自身が作ったものを自ら販売し、社会とつながる場を設けたことで、家庭や施設等の狭い世界に閉じこもりがちだった当事者の積極的な社会参加につながることができたと思われる。今後もグループパレットの本来の活動を基盤としながら、当事者が積極的に社会に関わる場として形を変えつつも続けていきたいと考えている。

お問い合わせ先：財団法人大阪YWCA「グループパレット」 06-6361-0838

2010年度コミュニティづくり協働事業 活動報告書

事業名	セクシャル・マイノリティの労働問題を考えるコミュニティ事業
団体名	Queer and Women's Resource Center (QWRC)



日時・期間	2010年4月～2010年3月
場 所	大阪市内四カ所 京都市内一カ所
規模・人数	20人/回

事業の目的と協働の形態

同性愛者や性同一性障害者などセクシュアリティを理由にした雇止めや、不当な扱いなどが実際に存在しています。この事業は、当事者が労働環境を考える機会とし、地域に労働環境の不自由さを伝え、お互いに働きやすい環境を作るきっかけづくりを目的としました。関西非正規等労働組合（ユニオンぼちぼち）に企画の構成協力、広報をお願いし、社会にセクシャル・マイノリティの労働問題を発信できるよう協働しました。また、大阪の同性愛者のコミュニティスペースと協働し、スペースの提供および広報をお願いしました。

実施内容

1. 性別を理由に労働契約を打ち切られたとして労働争議を行った方の報告を通じて、トランスジェンダーの労働問題について意見交流を行いました。
2. LGBTにとって働きやすい職場とは、どのようなものかを話し合いました。報告者として、大企業で研究職として働くゲイ男性Aさんと、小規模な職場で医療福祉職として働くバイセクシュアル・レズビアン女性Bさんが話し、質疑応答を行いました。報告やその後のディスカッションで、結婚の圧力や性別が不必要に労働と結びついていることなど、LGBTとその他の人々にも共通する課題が確認されました。
3. 会社やバイトでのセクシュアリティに関する乗り切り方（工夫）を聞いたり話したりする参加型トークイベントを行いました。参加者は、さまざまに、就活を終えて内定を受けた人、正社員、非正規、自営業の人、学生、留年決定の人、働くのがしんどい人など、が集まりました。工夫を分かち合い問題点、解決策、理想について意見を出し合いました。
4. LGBTと労働問題において使える法律や限界点、現状を発表。関西非正規等労働組合ユニオンぼちぼちさんに相談のあった事例を組合・弁護士・QWRCの視点から解決策を考えました。
5. 実際に職場を変えたとしたら、どんなやり方があるのか、具体的な問題を取り上げ話し合いました。結婚・出産祝・更衣室・健康診断・社会保険などの問題点をあげ改善できることはどこか、話合いました。

成果と課題

これらの企画を通して、実際に労働相談をする方がおられ、対応することができ、啓発から実践の場ともなりました。また、新たなネットワーク（弁護士、労働組合、人権団体）を構築することができ、今後のサポート体制の強化に向けて重要な資源を得ることができました。

お問い合わせ先：QWRC info@qwrc.org

LGBTと労働

連続学習会

L…レズビアン
G…ゲイ
B…バイセクシャル
T…トランスジェンダー
などのセクシャルマイノリティ

この学習会は、大阪府人権協会助成事業です。



…ありませんか？

この学集会は LGBT の当事者が自分の労働環境を考える機会にするとともに、地域社会に対して LGBT にとっての労働環境の不自由さを伝え。お互いに働きやすい環境を作っていくキッカケづくりを目的としています。

軽食付



1回 2010/9/11 (土) 13:30 ~
場所：ココルーム (大阪)
(<http://www.cocoroom.org>)

2回 2010/10/25 (土) 20:00 ~
場所：dista (大阪)
(<http://www.mash-osaka.com>)

3回 2010/12/4 (土) 16:00 ~
場所：バザールカフェ (京都)
(京都府京都市上京区
烏丸今出川上ル岡松町 258)

4回 2011/1/8 (土) 13:00 ~
場所：大阪医療技術学園専門学校
(<http://www.ocmt.ac.jp/>)

5回 2011/2/5 (土) 16:00 ~
場所：QWRC (大阪)
(<http://www.qwrc.org>)

参加費 **¥500** (軽食付)
(4回目のみ¥1,000です。)

主催

【クオーク】
QWRC
各回の詳細はこちら
<http://www.qwrc.org>
info@qwrc.org



関西非正規等労働組合
ユニオンぼちぼち
<http://rootless.org/botiboti/>

協力

LGBTI とその周囲の人のための電話相談を開設しています。

- LGBTI の当事者や、家族・友人に向けての電話相談です。
- 身体や心、恋愛など人間関係に関する相談も受け付けています。
- 労働相談も始めました。

毎月第1月曜日19:30~22:30

Tel. **06-6377-5447**



2010年度コミュニティづくり協働事業 活動報告書

事業名	新しく開設された市民交流センターで多世代間の交流を スプッチ子ども会活動
団体名	西成子ども応援サークル スプッチ




日時・期間	2010年4月24日～2011年4月9日
場 所	市民交流センターにしなり他
規模・人数	常時15人前後（最大18名）子どものみ

事業の目的と協働の形態	新しく開設された市民交流センターにしなりでの子ども会活動を通して、多世代間の交流の活動を行い、「地域の教育力」と再生と教育の「つながり」（縁）の関係を構築することを目的としました。協働の形態は共催して行事を計画（6月実施の廃線後ウォーキング、1月の学習会）、主催者として地域に広く呼びかけ（12月のもちつき）、対象をしばって呼びかけ（9月のスポーツ交流）という形態で取り組みました。
実施内容	<p>2007年3月末で大阪市立青少年会館条例と「子どもの広場」事業が廃止となり、引き続きこれらの事業の趣旨と目的を継承して、同事業に参加していた保護者を中心に活動を始めた「西成子ども応援サークル スプッチ」の活動も4年目を迎えました。今年度は、地域の子どもたちが異年齢、異学年集団で学びあい、高齢者をはじめ多世代の方々との交流により、地域の教育力の再生とつながり構築することを目的としました。また、地域の諸団体による教育活動の営みが社会関係資本としての意味を持つという学習会も開催しました。毎週水曜日の放課後は、5月12日より始めました。学習やスポーツ活動、毎月の第4土曜日（2007年4月より継続）を日常活動と多世代間の交流活動、館外での活動としました。</p> <p>6月27日（日） 地域の小学校区青少年指導員の皆さんと協働して、旧国鉄福知山線廃線後ウォーキング、9月18日（土） 地域の青年、不登校支援の活動「ひより」とスポーツ活動を通じた交流、12月18日（日） 地域の小学校PTAと協働して、町会などによびかけ「地域交流 ながはしもちつき大会」、12月27日（月） 市民交流センター内での高齢者のもちつき大会、1月17日（月） 「教育サポート7校区連絡会」と協働主催で学習会「現代の子ども・教育事情論」、講師、伊佐夏実さん（奈良教育大学教育学部特任講師）、1月29日（土）、地域の中学校の部落解放研究会の皆さんと、「油かす」作りにチャレンジを取り組み、食に関わる歴史と文化を学び、調理実習として実際に油かすを作りました。</p> <p>夏、冬、春の長期休業中の「居場所」活動として、「学び」と「遊び」の支援、日常生活習慣の確立、子どもに関わる高校生・大学生も共に育つことを目的として活動。</p>
成果と課題	地域の諸団体と協働して取り組んだことにより、子育てに関わる活動としてのスプッチ活動の認知度は上がったように思います。子どもたちが育つ地域（教育コミュニティ）の基盤づくりに寄与し、社会関係資本の一翼としての活動を担えた。ただ、活動には、小学校の「校区」指導（基本的に放課後は校区内で遊ぶ）があり、校区を越えて活動を行う場合は、注意と配慮が必要となることがわかりました。

お問い合わせ先：080-6174-5850 もしくは nsupucchi@yahoo.co.jp

2010年度コミュニティづくり協働事業 活動報告書

事業名	なるたき発 異文化交流とつながり事業	
団体名	NPO 法人 ワンピース	
日時・期間	2010年10月24日から27日・12月24日	
場所	鳴滝老人憩いの家、鳴滝第一・二小学校、その他	
規模・人数	公演 約300人	
事業の目的と協働の形態	<p>地元小学校二校と地域外の幼稚園で、事業時間を使って舞踊団との交流機会を作ってもらった。また、市人権協会よりスタッフとして数名の関わりがあった。地区内施設・団体より、食事の協力、宿泊施設の提供などがあった。</p>	
実施内容	<p>地域の高齢化は年々進んでおり、若年層の地域外への流出も増加している。また、校区編成で差別事象も出てきた中で地域や学校で差別をなくしていく取り組みが行われました。まだまだ課題はあるなか、まず鳴滝ってどんな所でどんなことを取り組んでいるのかをたくさんの人に知ってもらい、目で肌で感じてもらえるような取り組みということで、異文化交流事業をスタートしました。その思いの中には地域の子も達にいろんな文化に触れ様々な経験をして地域外で初めて出会う中学校へといけるようにとの思いもありました。</p> <p>今年はウクライナから23名の舞踊団を招聘し、異文化にふれ、習慣などの違いを感じることで、自分たちの文化を見直すことをねらいに、小学校や幼稚園の子もたちと交流をおこなった。音楽やダンス、遊びなどを通して、言葉の壁を越えた交流をおこなうことができた。地域の高齢者が集う施設では、昼食を囲みながら、折り紙を教えたり、お返しにウクライナの歌を披露するなど、お年寄りの方々とも心の通った交流をおこなえた。</p> <p>舞台公演では、看板やチラシを中学校区エリアに広げ配布したことで、地元以外からも参加していただき、子どもから高齢者まで本当に楽しんでいただくことができました。最後には客席の皆さんも参加してメンバーと踊るというサプライズもあり、盛大に終えることができた。公演後のアンケートにも、「今後もぜひ続けてほしい」「今度はホストファミリーとして参加していきたい」などの声がきけました。</p> <p>また12月のふれあいフェスタでは、地域の方々を中心に地域外の方にも参加していただき地域に伝わる踊りや料理を試食していただいたり、地域青年による餅つきを行い雑煮でおいしくいただきました。地域の保育園児の発表交流も予定されていたのですが、保育園でインフルエンザ・ノロウイルスが流行していたため中止となりました。その為3月に保育園主催で地域の方々との交流会をおこなうことになりました。</p>	
成果と課題	<p>鳴滝発の異文化交流事業として、地域外からもたくさん参加があり、鳴滝の良さを知っていただく、いいきっかけとすることができた。また年間を通して色々な活動を企画し地域内外交流をはじめ、子どもから高齢者の方々まで誰もが住みよい街として取り組んでいきたい。</p>	

お問い合わせ先：特定非営利活動法人 ワンピース 072-480-2404



日時 2010年10月26日(火)午後7時 開演

場所 泉南市立 鳴滝第一小学校 講堂

入場無料

特定非営利活動法人ワンピース
問い合わせ先 072-480-2404

2010年度コミュニティづくり協働事業 活動報告書

事業名	豊川地域多文化交流事業
団体名	部落解放同盟道祖本支部



日時・期間	下記のとおり
場 所	下記のとおり
規模・人数	下記のとおり

事業の目的 と協働の形 態	<p>目的：被差別部落、在日コリアン、イスラム文化圏の人々が相互理解し、多文化やそれぞれが抱える人権課題、差別の実態、生活問題等の理解を深め合い、豊川地域で共生できるよう、各マイノリティ当事者どうしの連携づくり、地域住民との交流をすすめることを目的とする。</p> <p>協働形態：イスラム文化センター大阪、コリア国際学園、道祖本支部の3団体での協働。</p>
---------------------	--

実施内容	<p>1. 3つの異文化交流（食文化交流）</p> <p>(1)被差別マイノリティ・地域住民との交流会 韓国・イスラム・被差別部落それぞれの被差別マイノリティの取り組み学習やイスラム文化料理に触れる交流会を実施しました。 ①日時・場所 2010年9月18日(土)午後5時～午後8時30分 茨木市立豊川いのち・愛・ゆめセンター分館(以下、豊川愛センター分館) ②参加人数 約50人</p> <p>(2)3つの食文化交流 「第1回さいのもとカップ」と同じ日に、イスラム文化の宗教食や韓国の食文化、道祖本地区の茶がゆなど、各々の食文化の作り方などを学び、それぞれの食文化を感じることができ、交流を深めました。 ①日時・場所 11月13日(土)午後1時～ コリア国際学園、豊川いのち・愛・ゆめセンター(以下、豊川愛センター) ②参加人数 約120人</p> <p>2. 啓発活動（多文化交流の啓発）</p> <p>(1)パネルの作成・貸し出し・展示 イスラム文化センターやコリア国際学園との交流や当該地区の歴史や差別落書き事件などの部落問題の取り組み等のパネルを作成しました。豊川地域の「やよい祭り」等において「昔のと今の道祖本」をテーマにしたパネルを同時に展示し、市民や地域住民等に対して、イスラムやコリア、被差別部落に関わる啓発をおこないました。また、大学や他府県へもパネルの貸し出しをおこないました。 ①日・場所：3月5日～6日 豊川愛センター 来場者:約200人 ②日・場所：3月12日 茨木市立市民会館 来場者:約350人</p> <p>(2)「豊川やよい祭り」でのコリア伝統文化の啓発 これまで道祖本地区で実施されている豊川地域行事につなげることができなかったコリア文化を、「豊川やよい祭り」につなげ、舞台の部でコリアの伝統舞踊等の出演を初めておこないました。舞台では、豊川地域住民や子ども達、団体それぞれのサークル活動や取り組みも披露され、それぞれの民謡文化に触れあえることができました。 ①日・場所：3月6日 豊川愛センター 来場者:約180人</p> <p>(3)情報発信・情報収集活動 イスラム文化センター大阪やコリア国際学園、被差別部落の取り組み紹介をはじめ、各被差別マイノリティへの差別・偏見の存在などを茨木市民へ広く知ってもらうため、啓発リーフレットを作成しました。また、英訳した人権マップも作成しました。 これまで行ってきた多文化交流や被災者支援の取り組みをはじめ、コリア国際学園に対する施設コンフリクト問題などを、TVや新聞が取りあげ、実際にTV放送や新聞に掲載されました。</p>
------	--

各種サービスの情報が届きにくいイスラム文化圏の人々に、民間団体やNGO、行政等の様々な情報や資料などの情報収集、イスラム文化圏ネットワークと連携した情報提供をおこないました。

(4)豊川地域における多文化ネットワーク活動

3団体による打ち合わせや会議を実施し、当事者が集まれる場づくりやネットワークづくりに向けた多文化交流会議を開催し、相互理解を深めました。

この様な中で、2011年3月16日に、東日本大震災の影響による外国籍避難者、約130人が、豊川地域に避難されてきたことを受け、3団体と豊川愛センターを中心とした、外国籍避難者支援として、寝床・生活物資・生活用品の確保、通訳ボランティアの確保、避難生活時の支援などの対応をおこないました。受け入れ総数は約170人で、エジプト・バングラディッシュ・モロッコの人々を受け入れました。

この取り組みを行えたのも、(財)大阪府人権協会はもとより、豊川愛センターやコリア国際学園、JICA 大阪があったからこそ、支援をおこなうことができました。また、様々な物資提供やボランティア等をいただいた民間企業や解放同盟の各支部、善意ある府民の皆さまのお陰です。ありがとうございました。この様な新たなつながりづくりによって、今後も多文化をはじめ多様な人々との交流や関係づくりをおこなっていききたいと考えています。

3. スポーツ交流（第1回さいのもとカップ）

「第1回さいのもとカップ」と題して、フットサルを通じた国際交流に、エジプト・インドネシア・マレーシア・バングラディッシュの各国留学生、コリア学園生徒、学校教員、若年者、労働組合、子どもと大人の混合チームなど12組が出場し、多種多様で多数の参加を得ることができました。

①日時・場所 11月13日(土)午後1時～ コリア国際学園グラウンド、豊川愛センター分館

②参加人数 約120人

4. 外国人等の子ども緊急一時保育ボランティア活動

(1)人権豊川地域協議会と連携した相談・支援の実施

宗教食を提供している保育所に入所希望するインドネシア国幼児の入所待機により、保護者の研修生としての仕事に従事できない問題を支援するため、豊川愛センターや茨木市人権豊川地域協議会(以下、豊川地域協)、イスラム文化センター大阪、大学、支部とが連携し、家庭生活や研修生としての仕事保障に向けた相談や支援を実施しました。

この取り組みも、豊川愛センターや豊川地域協の相談機能があるからこそ、発見・支援につなげることができました。

(2)一時保育の実施

インドネシア国幼児が保育所に入所できるまでの間、豊川愛センターに協力をいただき、地域の高齢者や失業者を中心とした保育ボランティアによる一時保育を同センター分館にて、実施しました。

適切な一時保育を実施する場所がないため、豊川愛センターに協力していただき、豊川愛センター分館をお借りして実施することができました。

①日時・場所:2010年9月～2011年2月の期間 豊川愛センター分館

成果と課題

- ① 被差別マイノリティどうしで、学習だけでなく、様々な交流方法で交流をおこなったことにより、人間関係づくりができ、地域住民への外国人に対する理解を少しでも深めることができた。また、啓発パネル等により、住民や市民、全国への啓発をおこなうことができた。
- ② 外国人研修生の課題を、一時保育を通して実感でき、日本における保育の課題を改めて発見できた。支援の必要な家庭にちゃんと保育サービスや就労支援などが届くような社会が必要だと感じた。
- ③ 多文化交流によって、3つのマイノリティどうしが集まるキッカケの1つとなり、ネットワークを広めることができた。東日本大震災の外国人避難者支援の取り組みによって、3団体以外の地域関係施設や関係団体・個人との新たなネットワークの構築も生むことができました。
- ④ 今後の課題としては、個人的に交流を図ることや日常的な相談を受ける受け皿づくりなど、さらなる豊川地域での関係づくりをおこなっていききたいと思えます。

お問い合わせ先：部落解放同盟道祖本支部 TEL072-643-1470

人権のコミュニティづくり

—2010年度コミュニティづくり協働事業報告書—

.....

2011年5月31日

財団法人大阪府人権協会

〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル (AIAI^{あいあい}おおさか) 8階

TEL. 06-6581-8613 FAX. 06-6581-8614

<http://www.jinken-osaka.jp/> info@jinken-osaka.jp